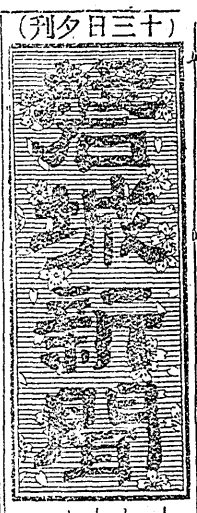
（十三日夕刊）

休刊日　第一　第三日曜
定價　一ケ月　二錢　郵税　六十錢　十五錢
廣告料　壱行六十錢指定廿錢均
福島縣平町田町十六番地
発行兼編輯印刷人　薩沼館輔
発行所　磐城新聞社
電話五六四番



平館の一月と二月（上）

——シネマニアのメモ——

島田良彦

これは、昭和五年新春から二月にかけて平館に上映された主なる作品に對する私の覺え書である。批評と云ふやうな固い意味に取るなしで氣楽によんで戴きたい。

×　×

『新女性鑑』

五所平之助の新らしき傾向、而し我々は、菊地寛の小說からイデオロギイを求める事が出來ないと同樣に、この監督にそれを求めるのは無理であるらしい、さうした本質的批判を除いて技術方面を見る時に五所平之助らしき多分の好さを發見する、勿論、それを扶けて除りあるのは近代的神經を有つた三浦光男のカメラである——。結城一郎、山内光の二人に新しい期待をかける事が出來た。

『修羅城』

疲れ切つた池田富保が仮面を登る……。

この一篇は取りも直さず疲勞困憊せる池田富保の姿である。『荒木又右工門』に出發した彼の所謂、春秋二期の超特作は最早數ふべからざるマンネリズムに陷つてゐる。彼に休息を與へよ。而して『修羅王』『地雷火組』の池田富保に甦らせしめよ。

『蒼白きバラ』

中村武羅夫先生はフエミニストである、男子見るべからず。木村千正男さんの名脚色。濱口富士子の妖しき魅力。そして、オ[illegible]ジャック。

『殺人』

稲垣浩の喋藥すべきドグマ。片岡千恵藏の空しき努力。かつて『繪本武者修業』の如き佳篇を物した少壯稲垣浩のために惜むべき一篇……。

『まご・ろ』

これは小林正の『まご・ろ』[illegible]。遺憾なが[illegible]

芳醇無比
白雪の誇り
松本德一吟釀
平電話七五二二

幕末奇傑高山彦九郎

中西洋々作
布施長春畫

（86）

郷家の辨（二）

「いや、片山、それはみなの廳が至らぬ所望を致したからちや、悪う思ふてくれるな」

そのとき、上座からかゝりました。やさしい鈴の音色は云ふ迄もありません大納言胤長郷です。

「はゝつ！」

片山北海も、その場に、手なついて平伏いたしました。

「しかし、舞の手はいつ見ても勇ましいものぢや」

郷は、尚言葉をいつゞけられました。

「今の詩　あれに、必ずもこの場にふさはしいとは申されぬが、しかし冠履遊に置かれた今の世にあつて古への世にかへし奉らんに至上の君、爲に、その居まる所、陪臣と稱さるゝ將士等すところを分たぬ如き有樣

講談

人、郷を上座に、それに少し下つて、福長郷、議事の進行係といふ格で、中井竹山が、その下手にひかへて居りました。

この福長郷は、當時右大辨の要職にあられかねて、文章博士の位にゐらせられた、稀有の逸才でムいました。

「本日、諸方のお集りを願うたのは他でムらぬ」

中井竹山は、胤長郷の方に向つて、一禮して後、かふ口をきりました。

「現下の世情をつら〳〵考へるに武權天下にはびこり、至上の君、爲に、その居まる所、陪臣と稱さるゝ將士等すところを分たぬ如き有樣みな、現在の主君と仰ぐ將ひ[illegible]り潛上の德川のみなら、軍家に對して離反せねば相成らぬ、即ち、事情は異なるが、將軍家から見て、それら尊王の士はみな逆臣であらう、これを、信長郷から見て、光秀の逆臣である[illegible]いよ心と、いくばくの差ひあらう、その精神の根底暴に對するに、文の明を以てするこれこそ我等學問の徒の採るべき道ではないかながら仔細ないと廳は存ずるが、どうぢやらう」

郷の說かるゝところは、靜かな春の日の湖上を走る小舟にも似てさはやかに、なめらかに滑り出します。一座は、みな、その爽やかな辨舌と明徹な論言とに、今更のように感じ入りました……。

第二回の會合は、それから、三日を置いて正月の十日に、大納言邸の書院に開かれました。

會するものは、前日の宴會に集まつた人々に、その日は特に、郷の御子息よし長郷をまじへて、都合十二人、現在の主君と仰ぐ將軍家に對して離反せねば相成らぬ、即ち、事情は異なるが、將軍家から見て、それら尊王の士はみな逆臣であらう、これを、信長郷から見て、光秀の逆臣である[illegible]いよ心と、いくばくの差ひあらう、その精神の根底暴に對するに、文の明を以てするこれこそ我等學問の徒の採るべき道ではないかながら仔細ないと廳は存ずるが、どうぢやらう」

郷の說かるゝところは、靜かな春の日の湖上を走る小舟にも似てさはやかに、なめらかに滑り出します。一座は、みな、その爽やかな辨舌と明徹な論言とに、今更のように感じ入りました……。

第二回の會合は、それから、三日を置いて正月の十日に、大納言邸の書院に開かれました。

會するものは、前日の宴會に集まつた人々に、その日は特に、郷の御子息よし長郷をまじへて、都合十二人、現在の主君と仰ぐ將軍家に對して離反せねば相成らぬ、即ち、事情は異なるが、將軍家から見て、それら尊王の士はみな逆臣であらう、これを、信長郷から見て、光秀の逆臣である[illegible]いよ心と、いくばくの差ひあらう、その精神の根底暴に對するに、文の明を以てするこれこそ我等學問の徒の採るべき道ではないかながら仔細ないと廳は存ずるが、どうぢやらう」

郷の說かるゝところは、靜かな春の日の湖上を走る小舟にも似てさはやかに、なめらかに滑り出します。一座は、みな、その爽やかな辨舌と明徹な論言とに、今更のように感じ入りました……。

第二回の會合は、それから、三日を置いて正月の十日に、大納言邸の書院に開かれました。

會するものは、前日の宴會に集まつた人々に、その日は特に、郷の御子息よし長郷をまじへて、都合十二

◇三月十三日寫眞替り◇
愛染地獄
第三篇　連續劍史　解決篇　全十卷
◇片岡千恵藏・常盤操子・東京日日新聞連載◇
原作菊地寛氏
主演　八雲恵美子　及川道子
名畫　不壞の白珠　全
助演　高田稔・高尾光子
不壞の白珠の唄　獨唱　千鳥君子嬢
紋之助の發つた短銃一發、寅松の率ゆる數百の捕方白及亂闘……劍魔境……おさらばお金の活躍と相まつて……奇怪兒鐵坊主の正体に果して？
平館
松竹作品……
主演　堀正夫　千早晶子
倒幕義軍　天誅組　全
文久年の八月十四日初秋とは云へ風冷く妙法院大佛の森の深夜突如二筋の鎗……

カバンと帽子
入學進級には
ゼヒ「ツルヤ」へ
新しい丈夫な品が
得られます
平町四丁目
ツルヤ
電一四〇

内科・小兒科
花柳病科　入院療養
藤沼醫院
平町　電話　第四五〇七番

明日の吉の凶
第五　第四

二三
新聞
十二

平町田町
特約店　廣瀬支店
電話五四番

夜診
胃腸
内科
十二指腸虫病
專門
内科部
淋病
婦人病
皮膚病
專門
外科部
松竹胃腸病科醫院
（平南町電話一〇七番）
療間

平町
紺屋町
吉田眼科醫院

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は
三四三番
サシミ

開業廣告
今般左記ノ通リ開業致候間此段及謹告候
昭和五年三月一日　敬具
◎專門　內科一般
宅診　往診
時間午前七時より午後十時迄
但し急患はこの限りにあらず
平町南町六五（元大和田耳鼻科跡）
川井內科診療所
電話七二二番
醫學士　川井重之
女醫　川井安子

△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五　中瓶三五　大瓶五〇
平町五丁目角
大販賣店　山野邊藥局
げんろく元祿
株式會社朋友商會

平町田町
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
電話五一三番
內科・小兒科、外科・花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり或ひは社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番　五四一番

セイコー時計の値下斷行
景品は特賣
金解禁で…國產品の愛用…
景品總額金拾貳萬圓
景品內譯
一等　蓄音器壹台　三百六十本
二等　置時計壹ケ　五百本
三等　置時計壹ケ　一千本
四等　目覺時計壹ケ　五千本
五等　特製ナイフ　全部へ
時計は信用ある精工舍製品を
平
特約店　大谷時計病院
電話十九番

本ンニ胃腸藥
健康第一
健康は胃腸から

町會議員が策應し 馬場校長を虐待

旅費日當を削り取って 四倉町の騒ぎ

石城郡四倉町では過般町會を開き昭和五年度豫算案について協議を重ねたが町會の席上同町小學校長馬場末秋氏の排斥が叫ばれるに至つた馬場校長は同町校長として資格なきものであると風紀紊亂の事實を述べ民政黨議員數氏が新妻町長に質問し校長を町會議場に出席を求めたが

病氣の理由を以て出席しないので憤慨した町會

議員は町會で校長排斥の決議をすべしと主張し結局小學校長費は前代未聞の大削減を加へ縣下校長會議に出席する校長の旅費として金五圓を計上したのみであり

他旅費日當は殆んど

町長の仲裁的注意に依つて議員は然らば校長として仕事の出來ない樣に豫算を削減す